

CROI (Conference of Retrovirus and Opportunistic Infection)

報告書

京都大学大学院医学研究科血液腫瘍内科

福田寛文

参加目的：日本での HIV 診療における知識の向上

到達目標：自身の日常診療、研究のヒントとなるアイデアや知識の習得

活動・行動内容：エイズ予防財団より助成を受け、2017年2月13日～16日まで開催された CROI に参加した。公開シンポジウム、ポスター発表での演題を拝聴、閲覧し、HIV 診療における数多くのトピックを得ることができた。研究内容では restriction factor の演題を期待していたが、目新しいテーマは特に見当たらなかった。一方で「90-90-90」(2020年の時点で、世界中の HIV 陽性患者の 90%が検査を受け、自身の HIV 感染を把握し、そのうちの 90%が治療を受け、さらにそのうちの 90%が治療の効果で体内のウイルス量が検出限界以下になっている状態を目指すという内容)をテーマとした議論は熱く、統計学的にはこの数字を達成できれば、新規患者は 50 万人に減らせる、という計画である。実際に数字的に近似値まで達成している報告も結構みられたが、その一方で、日和見感染症の割合が増えている、等といった矛盾した内容もあった。これは単純に統計処理の問題ではないかと考えた。実際に到達を目標としているのであればこれらのデスクワークを担う者も一致団結して取り組む必要があるのではないかと、といった印象をもった。

その他、エイズ患者の悪性リンパ腫の治療に関する発表も閲覧したが、本邦同様に組織型が特殊なタイプが多く、その分治療も難渋している印象をもった。昨年も本学会に参加したが、非常に有意義な情報が多く、HIV 診療に携わる者として参加を心待ちにしていたため、大変満足のいく学会であった。ぜひ来年度も参加し、できれば発表をしたいと考えている。